

1 第1回総合教育会議(7/30)で協議されたこと

- ◆ 外国につながる子ども
 - ◆ 特別な支援が必要な子ども
- 共通する課題
- ・ 支援を要する子どもの増加
 - ・ 子どもの実態やニーズの多様化

共生教育における推進体制の構築 (日本語指導+特別支援教育)

〈主なご意見〉

- 共生教育の充実に向け、教育委員会内のノウハウを共有し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れて支援することで、どの子に対しても最適な教育が実現できる。
- 新たな推進体制を共生教育の総合窓口とし、個々の課題への関わりや市民への情報発信など、丁寧に対応していくことで、どの子も取り残さない教育を実現する。そのために、コーディネーターやスタッフの充実が欠かせない。
- 他課・他団体との連携強化により、市全体の取組として子どもを育む体制を構築すること。

2 静岡市の共生教育における推進体制

(1) 静岡市の共生教育が目指す姿

- 困難を抱える子どもが、個別最適な指導を受けることにより、自己の学びを深めることができる。
- 受入側の共生教育を推進することにより、困難を抱える子どもや保護者が、学校や地域の中で孤立せず、安心して生活を送ることができる。



推進体制の充実・強化

(2) 新たな推進体制の主な役割

- ◎ 静岡市「多文化共生のまち」実現に向けた、学校・地域における共生教育の推進
- 日本語指導と特別支援教育の増加・多様化するニーズに対応する支援・指導の充実
- 困難を抱える子ども・保護者の相談窓口および拠点機能

(3) 新たな推進体制(案)



(4) 新たな推進体制によって得られる効果

◆ スタッフの協働による支援・指導の充実

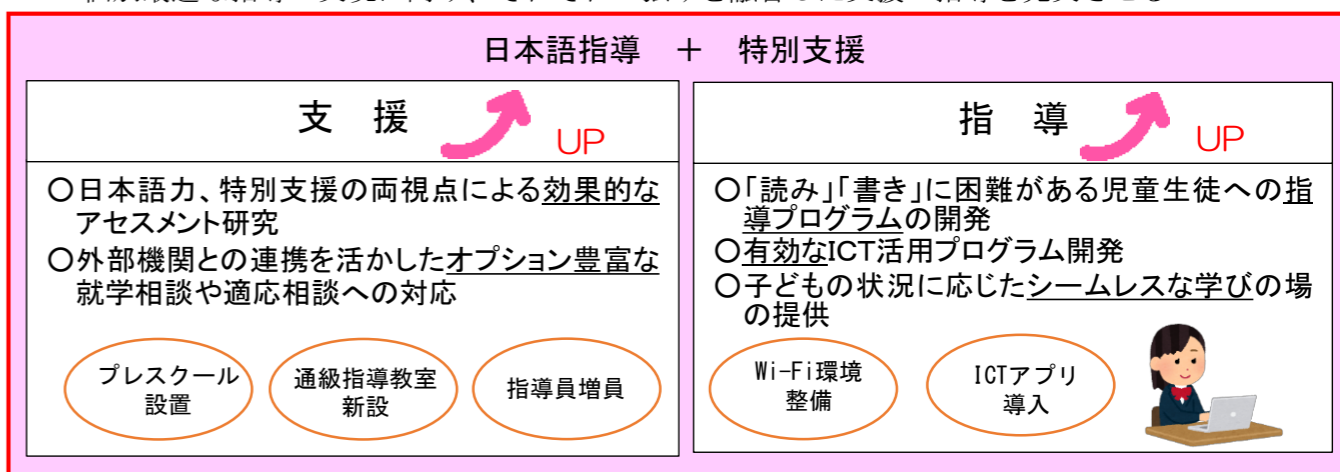
◆ 共生のまち実現に向けた市民の拠点づくり

3 体制強化による効果を活かした取組

◆ スタッフの協働による支援・指導の充実

(1) 日本語指導・特別支援のノウハウの共有

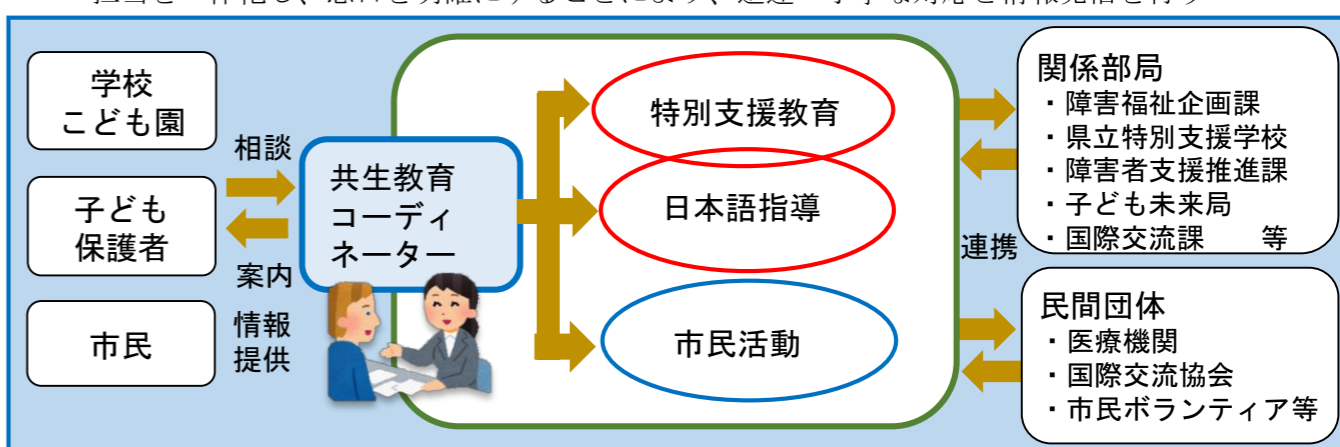
・ 個別最適な指導の実現に向け、それぞれの強みを融合した支援・指導を充実させる



◆ 共生のまち実現に向けた市民の拠点づくり

(2) 共生教育コーディネーターの配置

・ 担当を一体化し、窓口を明確にすることにより、迅速・丁寧な対応と情報発信を行う



(3) 学校・地域における共生教育推進機会の拡充

・ 新たな推進体制を拠点とし、学校・地域における共生教育を推進していく

